

平成27年度事業計画

2015/03/28

社会福祉法人細会

もくじ

- ◆ 基本理念 ～ 目標体系

- ◆ 中期事業目標・中期事業戦略

- ◆ 職員への思い

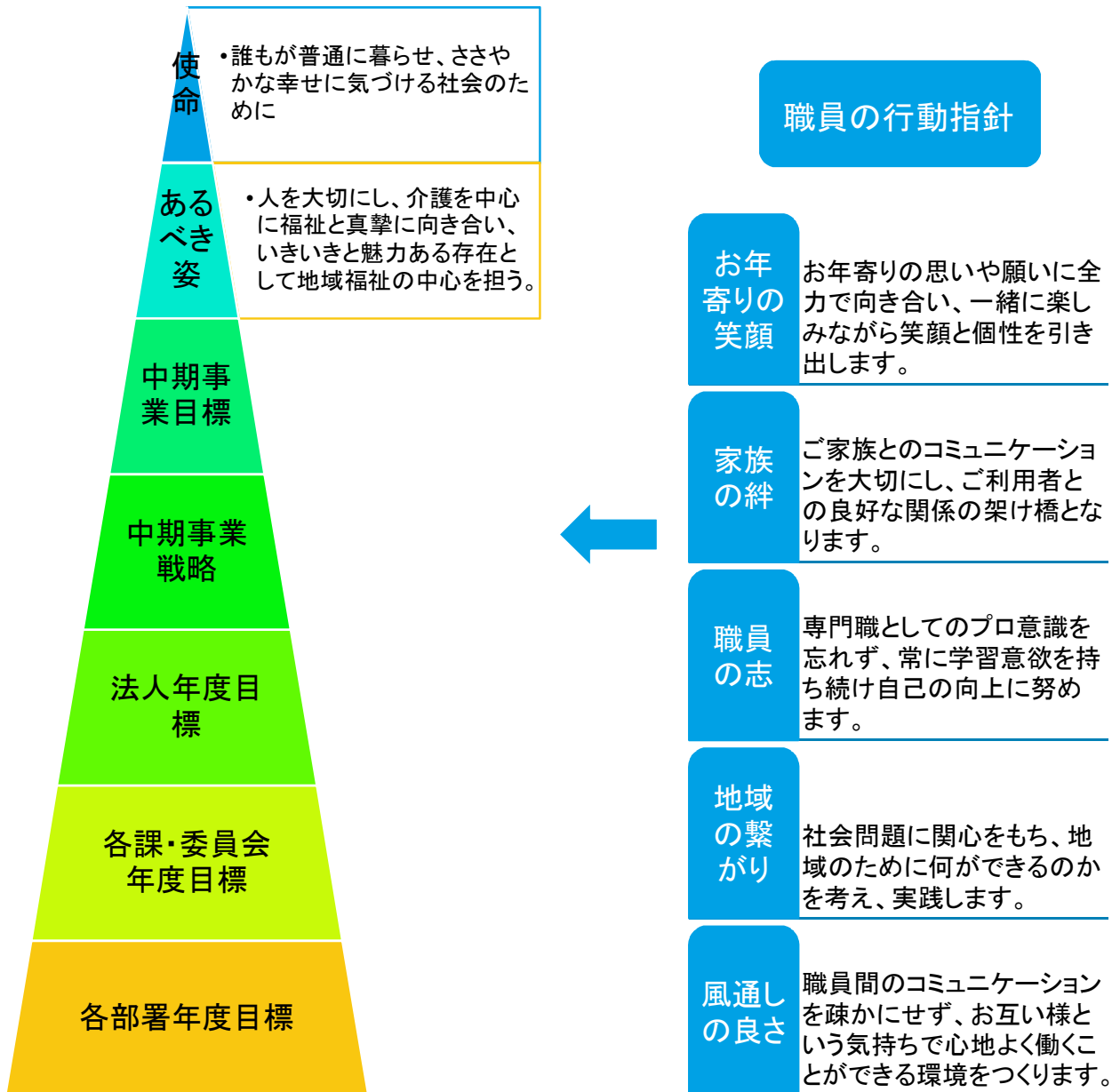
- ◆ 法人年度目標

- ◆ 数値指標

- ◆ 資料
 - 平成 27 年度 社会福祉法人絢会 組織体系
 - 平成 27 年度 社会福祉法人絢会 会議一覧
 - 平成 27 年度 社会福祉法人絢会 年間予定

◆ 基本理念 ～ 目標体系

基本理念【普通に暮らす幸せ】



- 使命/職員は何を大切に考えて仕事をするか
- あるべき姿/3年後(平成29年度末)にどのような組織であるべきか
- 中期事業目標/あるべき姿を達成するための3年後に具現化すべき目標
- 中期事業戦略/事業目標を達成するうえで重点としたいポイント

I. 介護を中心に福祉と真摯に向き合う

- I-1 質の高い基礎介護力の維持・向上
 - ①介護の質の言語化と可視化
 - ②基礎介護力研修カリキュラムの確立
 - ③PDCAを用いた目標管理
- I-2 地域福祉への貢献
 - ①地域行事やボランティアへの積極的な参加
 - ②積極的な広報活動
 - ③法人資源を活用した柔軟なサービスの創造と公益活動

II. いきいきと魅力ある存在となる

- II-1 次世代を担う福祉人材の育成
 - ①研修制度の確立と充実
 - ②積極的な他事業所との交流
 - ③多様な働き方を可能とする職場環境
- II-2 風通しのよい職場環境
 - ①ICT化による情報の共有化・一元化
 - ②社内コミュニケーションの活性化
 - ③福利厚生 of 充実

III. 財政基盤の安定化

- III-1 数値目標
 - ①当期資金収支差額（毎年:8百万円以上）
 - ②年度末預金（平成29年度末:8千万円以上）

◆ 職員への思い

職員も幸せになるべきです。人間的な成長は自身もご利用者も、そして周りの人も幸せにしていくと考えます。働きやすい職場で、やりがいをもって生き生きと働くことが自己実現につながり、人間的な成長を促すと信じ、人財育成に取り組みます。

自己実現を応援します

- 当法人で働くことがステップアップの場であって欲しいです。目の前のこと、些細なことも疎かにせず、自分のあるべき姿を思い描き自己研鑽に励む職員を応援します。
- 迷い悩むことは当然のこと、一緒に悩み、考えられる仲間でありたいと思います。

働きやすい職場を創造します

- ワークライフバランスを大切にし、多様な働き方を受け入れられるような体制を整えます。
- 情報の滞りが人間関係に悪影響を及ぼしてしまうことがあります。情報の流れを整備し共有化を推進します。

やりがいをもって生き生きと働くことを支援します

- 成功体験を積み重ねていくことが自信を生みます。目標設定と振り返りをしっかり行い、成果を確認することが、やりがいにつながります。
- やらされる仕事はつまらない。自分たちで問題を発見し、考え解決していく仕事のほうが楽しいはずです。
- 手段と目的を混同させない。「何のために」という目的を伝えること、見失わないことが大切です。
- 自らの個性を生かしながらもチームに貢献する職員を応援します。

◆ 法人年度目標

1. 社会福祉法人としての公益的な活動と透明性の確保

近年、社会福祉法人を取り巻く環境は厳しいものになっています。内部留保に対する批判、株式会社やNPOとのイコールフットイングの問題です。原因として、社会福祉法人の役割や存在意義が広く認識されていない状況や財務諸表の不透明さがあります。

社会福祉法人は、社会福祉事業を主たる事業とする非営利法人であり、制度や市場原理では満たされないニーズについても率先して対応していく取り組みが求められています。社会や地域に必要なニーズについては利益だけを求めることなく、公益的な活動を行います。そして、ご利用者や地域の信頼を得ていくためにも、財務諸表をはじめ、法人の概要や活動についてもわかりやすく公表し経営の透明性を高めていきます。

2. 働きやすい職場をつくる

(1) 当法人職員の8～9割は女性です。女性が活躍できる職場として、出産、育児、介護等のライフイベントがあっても働き続けられ、多様な働き方を選択できるような環境を整備していきます。就業規則等の整備や組織体制の強化を図ります。

(2) ユニットケアの問題点として狭い人間関係が挙げられます。少人数で深い人間関係が築ける代わりに、精神的な負担は増します。うまく気分転換をはかり、他部署の職員ともコミュニケーションを図ることが必要です。休憩場所の充実や社内イベント、部署を超えたプロジェクト等の社内コミュニケーションを活性化させる取り組みを行います。

3. ICT化による負担軽減と生産性の向上

平成27年10月にシステムの入替えが予定されています。既存のグループウェアや介護保険ソフトを見直し情報の流れを整備します。また、タブレットPCの活用も視野に入れた情報共有システムの構築とペーパーレス化をすすめ、必要な情報を即時に取得できるような環境整備を行います。情報の整備と共有化により業務や記録の省力化と効率化を図ることで、介護現場の負担軽減と生産性の向上を目指します。

4. 問題解決のできるチームをつくる

同じ仕事を同じようにやっていると、問題があってもそれが当たり前になってしまいます。それがルーチンワークとなりモチベーションの低下に直結します。ひとりひとりが問題を発見し、自分たちで考え解決できるチームを作っていくことが生き生きとした職場づくりには欠かせません。あるべき姿を描き目標設定し、課題や問題を解決していく仕組み作りをします。

5. 人材の確保と介護の質の維持向上

一般求人の有効求人倍率が1倍前後のなか、介護職の求人倍率は2倍を超す状況です。人材の確保はこれまでに比べ非常に困難な状況が続いています。人手不足が介護の質に悪影響を及ぼさないよう、積極的な広報活動による人材の確保と効率的な人員配置を行います。また、移乗介助、おむつの当て方等を含めた基礎技術向上を推し進め、介護の質の維持、向上に努めます。

◆ 数値指標

	特養	ショート	デイ玉樹	デイ じゅげむ	居宅介護 支援事業 所
利用者定員	50	10	25	10	-
稼働日数	366	366	310	366	-
稼働率	98.00	99.00	87.00	86.00	-
一日平均利用者数	49.00	9.90	21.75	8.60	-
利用者延べ数	17,934	3,623	6,742	3,147	-
単価(1人1日当たり)	13,464	12,332	9,110	9,511	-
総収入(千円)	241,465	43,300	59,980	28,042	14,050

平成27年度 社会福祉法人絢会
組織体系

